

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和6年度事後評価結果表

大学名	国際基督教大学
整理番号	B13
構想名	信頼される地球市民を育むリベラルアーツのグローバルな展開

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価（公表用）

(総括評価) A	十分な取組状況で事業目的が達成され、今後も持続的な発展が期待できる。
<p>(コメント)</p> <p>事業期間全体において、開学より取組んできたリベラルアーツとバイリンガルを両輪とし、教学プログラムや教育の展開、学生・教員の統合的な支援体制の構築を主眼に置いて各種取組を行うことで、国際的社会人としての教養をもつ有為の人材が育成されたものとなっている。その人材育成の下、「グローバル・リベラルアーツ教育」が展開されたことで、国際通用性や教育の質がさらに高まったものと言える。特徴的な点として、外国語のみで卒業できるコースをあえて設けず、バイリンガル教育の充実によりプログラムを展開していることは、一つのグローバル教育の有力なモデルとなるべきものだろう。</p> <p>具体的な事業展開に当たっては、「Global Liberal Arts Alliance (GLAA)」に加盟することで海外の主要大学との協働が図られた。それを発展させた形で夏休み期間中の教育プログラムを強化したことで、柔軟な学びの機会を提供している。夏学期利用により学士課程を最短3年で卒業が可能となり、大学院との連携による学士号・修士号を5年で取得できる「5年プログラム」により、学生の大学院進学への関心を引くものとなっており、内容としてもリベラルアーツと専門性を兼ね備えた実務キャリアの形成が期待できる。さらには、多様な学生に対応する入学制度「ユニヴァーサル・アドミッションズ」の導入、国際バカロレア認定校を対象とした入試にも積極的に取り組むことで、多様な言語・国籍・文化等の背景を持つ学生の獲得増に繋がり、ユニバーサル・コミュニティの形成にも進展が見られる。教職員に関しても、ダイバーシティ推進の観点で十分な進歩が見られ、外国籍教員割合も高いことから国際通用性のある組織が形成されており、それらをサポートする体制も十分機能している。</p> <p>一方で、自然科学分野の履修について遅れが指摘された点は、様々な工夫による試みがなされているものの、理系科目単位数の伸び悩みなどに見られるように、必ずしも原因が解消しておらず、貴学のミッションに沿った教育の展開はまだ十分であるとは言えない。とりわけ今後、数理・データサイエンス系に重点を置くことが言明されているため、バランスのとれた人材育成を育むためにも、この点について十分な対応が望まれる。</p> <p>最後に、スーパーグローバル大学創成支援事業による補助期間は終了したが、引き続き徹底した「大学改革」と「国際化」を断行し世界的に魅力的なトップレベルの教育研究を行い、我が国社会の国際化の牽引に寄与されることに期待する。</p>	